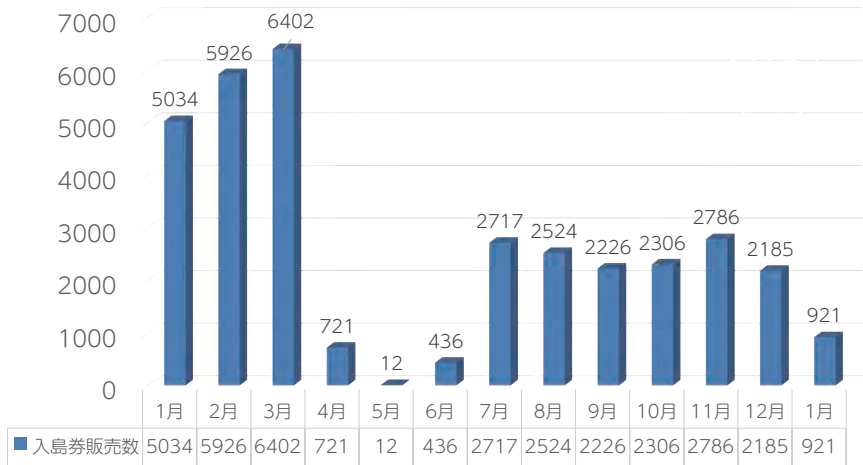


07 2020年入島料収受実績

2020年1月～の入島料収受実績は下記ようになります。7月頃からわずかに増えはじめていた観光客ですが、再び発出された緊急事態宣言の影響で2021年1月からは大変厳しい収受実績となっております。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

入島券販売数



お知らせ

財団公式ホームページでは竹富島で一緒に暮らしている生き物たちを紹介するページを開いたしました。植物や動物の解説だけでなく一部の生き物の鳴き声を聞けるコーナーもご用意しております。お時間のある時には是非ご覧ください。

竹富島 財団





▶ 0:00

琉球コノハズク
マキワケ

全長20cmほどの小さなフクロウ。夜になると木に潜まったり、ホホーと囀っている。近づいてライトで覗くとさすがに鳴きやむが逃げることほ少なく、キラリと光る大きな目で凝視してくる。



▶ 0:00

琉球アカショウビン
オウゴン

赤いボディと大きなクチバシ。そして特徴的な鳴き声がチャームポイント。島の鳥で4月から9月頃まで竹富に滞在している。戦闘機のようなスピードと機動性のある飛行を見せてくれる。



© Maehara Motoo

竹富島では、そんなに遠くない昔。あまり便利とは言えないけれど自然体で暮らせる心豊かな時代がありました。

私たちは入島料で、島がいつの間にか失ってしまったもの、忘れてしまったものを取り戻すべく活動を進めてまいります。



01 瓦葺き替え用土づくり

竹富島で国の重要文化財として2007年に登録された旧与那国家住宅。現在その一部の修復工事が行われているのですが、瓦葺き使用する土作りに参加しました。以前は瓦の葺き替えをすると決まった家は、各自土作りを行なって半年から1年間寝かせて使用していたそうです。今回も半年先の使用を目指して準備を始めました。地面に50cmほどの穴を掘り、土と藁を水をかけながら混ぜ込みます。藁は都合上、古い畳を崩したものを使用。畳に縫い付けられている糸やビニール、発泡スチロールなどは土のなかで分解されないので丁寧に取り除きます。みんなで裸足になり、泥まみれになりながら藁と土をほぐしていきます。これからもたまたま裸足で混ぜ込みをする必要がありますが、半年かけて藁が分解されることで土の良い繋ぎとなり、時間が経っても雨漏りしないしっかりと瓦を固定してくれる良質な土が出来上がります。



02 新環境教育ツアーテスト

環境省補助事業の一環で新しい環境教育ツアー「まいふな－ツアーリズム」のファムトリップ（テストツアー）を開催しました。3回にわたって行われたワーキンググループによる検討で、ツアーテーマとガイド地域を決定。また島外企業に協力してもらい海洋プラスチック再生方法のレクチャーを受けてきました。初めてのファムトリップでは参加者を20名ほど集めて「竹富島海域の動物・植物 / 歴史・伝承ツアー」および「海洋プラスチック再生ツアー」のファムトリップを行いました。次年度は今回学んだ内容を竹富島の新しいツアープログラムとして検討していきます。



03 星のや竹富島と伝統耕作で協力



星のや竹富島の敷地内にある畑にて竹富島の伝統耕作物である粟とタカキビ、モチキビの3種類の種まきを共同で実施しました。今後も星のや竹富島と財団では様々な活動で協力し、共に竹富島の環境保全と文化の継承を実施していきます。

05 発泡スチロールリサイクル



鳩間島と初の共同事業を実施。鳩間では海岸に漂着する発泡スチロールを再生してスチロール油としてリサイクルする環境保全活動を実施しているため、当財団の海浜清掃活動で集まった発泡スチロールを鳩間島に送ってリサイクルしてもらいました。

04 粟と島ニンニクの植え付け



今年も竹富島の祭祀で利用される粟とニンニクの植え付けを行いました。前回の粟の種まきはバラマキで行いましたが、雑草や害虫への対処しやすさ等から今回は筋に沿って蒔くスジマキとしました。最後にマーニで表面を撫で、うっすら土が被るようにしました。

06 苗の育成 (フクギ／キャンギ)



財団事務所脇で育成しているフクギとキャンギの苗たち。狭いポッドのなかで育っています。竹富島では寒いと表現される季節ですが、気温は低くても10℃前後。一緒に雑草も育っているので、その除草をしつつ、環境保全事業で活躍する日を待っています。